

大地震
津浪
末代新此種

三編全

71

2954

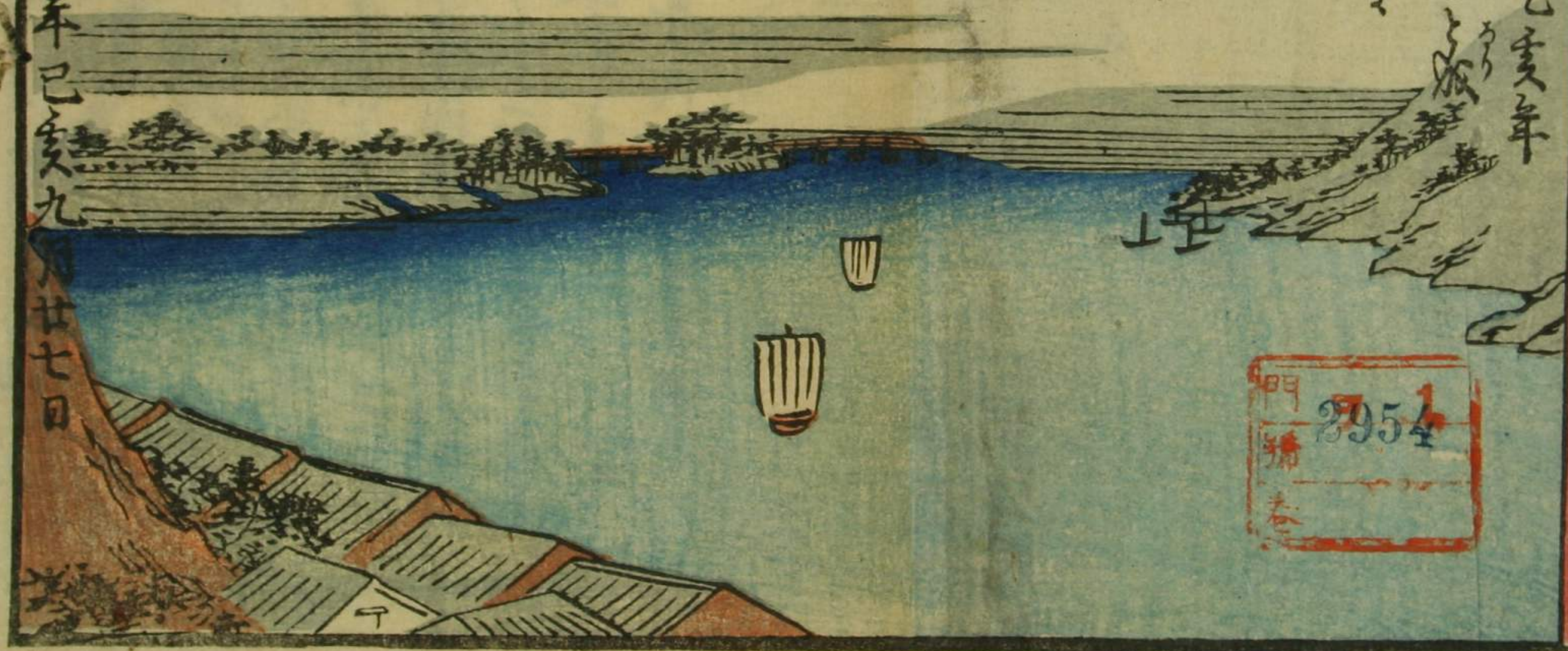
3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
JAPAN
Ta. mms

諸國 大地震 年代記 末代 喇種

子一

○人皇七代孝靈帝八年乙亥年
○二十代元恭帝丙辰七月
廿四日大地震あり
○三十九代推古帝七年
己未四月廿七日
○四十四代天武帝白鳳
四年乙亥十一月十日
同日十二年戊寅十月四日
同日十九年甲寅十一月七日
○四十六代文武帝慶雲
四年丁未六月八日
○四十九代和武帝天平
十六年甲申正月七日
○五十七代文德帝齊衡
三年丙子二月八日
○五十九代陽成帝元慶三年己亥九月廿七日



明治 2954

諸國大地震未代漸種

大地震
年代記

子二

○六十代孝宗天皇三年丁未七月七日

○六十一代朱雀天皇二年己亥四月二日

○六十四代醍醐天皇元年丙子六月十八日

古今未多有之大地震古今未多有之大地震二百余日やまら

○六十九代後朱雀天皇二年己亥夏

○八十一代鳥羽天皇二年丙申四月八日

同治承三年己亥十一月七日

○八十二代後白河天皇元年己巳七月九日

○八十八代後深草天皇元年丁巳七月廿二日

○九十一代後伏見天皇元年癸巳四月廿二日

○九十二代後醍醐天皇元年甲子十一月十二日

○一百代後円融天皇南永和

二年丙辰四月廿八日

○百一代後小松天皇永承九年八月

同十二年正月十四年二月

同十七年庚寅正月之四ヶ夜

○百二代後花山天皇永享四年

四月十六日同九月十六日文安

五年戊辰年比震比震流行病

飢饉飢饉古今の凶年なり



諸國地震未代噤種

子三

大隅の
海陸
果



○百四代後土御門帝文正

元年丙戌十二月廿九日

明應三 甲寅八月七日

月四年乙卯八月十一日

○百六代後柏原帝永正七

庚午八月七日

○百八代後光厳帝慶安元

戊子四月廿二日

○百六代後高良皇帝天文二丙辰二月十三日

又同十二年大崩

○百七代正親町帝天正十三年乙酉十一月廿九日

○百八代後陽成帝文祿四年乙未七月二日

又同日月十三日疾疫

は肘系都大崩

○百十代後水尾帝明正七年辛酉七月七日

○百十一代後光厳帝慶安元戊子四月廿二日

○百十二代後西帝寛文二年壬寅八月廿日

○百十三代靈元帝天和二癸亥四月八日

とも大崩

○百十四代东山帝元禄十六年癸未十一月廿二日

諸國大地震 兼代記 未代噺種

子四

大地震二百余日震小室永四年十月四日大坂大地震
 人屋死山と云々此の時紀が勢ありて勢が漸く
 勢を以て吹上は波を起し若致万人死と云々
 一と云く一灰なるは時記永成

○百十五代中門帝享保十七年九月廿六日紀おと
 日十二年丙午二月十九日裁お地人

○百十七代相聖帝宝曆元年辛未二月廿九日系於
 大坂人七月と云震小月四月廿八日裁後と云る刻

より丑刻と云二十余夜震小山震きて死人一万六百人
 ○百廿代仁孝帝文政又壬午六月十二日系於大坂人

日十二年庚寅七月二日系於大坂地震
 公化四年三月廿四日位分り光ち大地震死人數一



○嘉永七甲寅年六月十四日
 諸國大地震人南邦津安上登
 勢お四を烈一日十一月四日
 西日見の中々志お勢お
 紀お勢お大荒地震の後
 津波起り死人殺知るに
 大坂と云津波の勢を
 死する者凡六千餘人

諸國 大地震相撲魁 未代 噺種

大關 小關 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭

阿州德嶋 尾州津嶋 駿州蒲原 參州御油 熱州津 遠州桑谷 藝州鷹 豐後府

羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽

駿州土原 熱州新井 遠州廣瀨 雲州舞坂 遠州舞坂 信州松本 泉州岸田 曹州八幡 江州八幡 遠州濱松 參州吉田 筑前博多

取 頭 人 話 世

泉州三浦 駿州津 曹州野 泉州津山 若州小津 播州室津 熱州市 和州郡山 駿州岡部 伊賀上野 肥前平戸

次身 不向 御免

行 司 山城京 尾州名古屋 武州江戸

勸進元 差添人

攝州大坂 紀州若山

大關 小關 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭

相州狼 遠州刈 熱州山 尾州宮 駿州津 豫州大津 藝州大津 讚州高松

羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽

肥後熊本 駿州府中 備前岡山 阿州児島 長州萩 淡州須本 揚州尾崎 駿州江尻 丹州龜山 播州赤穂 防州三尾

取 頭 人 話 世

駿州由井 日州原 江州鳥取 江州日野 攝州西宮 尾州清洲 江州長濱 豫州西条 和州奈良 豐前中津

大津波未代嘯種

嘉永七甲寅年十月八日地震後大津波津波うつく大坂本
津川安治川破船死人

○安治川大船百七十艘の上若葉舟合して
百八十艘破死人九百八十人

○本津川大船百九十艘の上若葉舟合して
八百三十艘破死人九百八十人

内分け。揚屋揚屋うつく日十八人
○南堀江口丁目み丁目うて三十人

○上りや町二人。トどくろ日十三人
○四日多町うて日十人

○玉女町人。幸町日百九人
○令居町十一人。古橋日十二人

○幼女橋日十二人。大黒町六人
○新戒町八人。安治川日百八十人

死人凡合 男日百六十三人
女日百八十七人

右ハ十一月十一日迄川中より
揚屋揚屋うつくは破死人未詳
他國より入世の人々船死も
は安の船死九十六人なり



大地震未だ嘯種

房州名取巻 志保七寅十月四日

み日大地人二三を海りの
そんど市中お産お家店
多く崩る七折所の辺
の大門くぐる又火つけに
は波来り小舟枚本押上
船そんどけが人廿とけり
○知多郡新田何まき大津
波を交み尺二丈位の浪
打寄せ境三ヶ所切の浪
大井急流をさるる

【お産】 三日分海り換

お産崩るまち大そんど
○産根月中の荒○産
を産崩る○産大換

お産お産お産お産お産
濁る○加納大匠七八分換
けを産根月中○産後
世にさるる川岸地破て
泥吹吹る○産系てを海り
そんど○福桑八分海り換

【信お本】 大地人うて町家

向い側の朝と打合大とん
七八分海り倒る所り換
○産老ち大荒とて信
おちしんちけり

【お産】 ちしん換れども

お産お産お産お産お産
換を産根月中○産後
思産ちりと信しをりぬ

大地震大津波 東海道間宿 未代噺種

○岩瀬大橋トとより壊れぬ
 うらりり 富士川とこらひあ
 災火も所り死人多かあり

○新坂中々の所 巨み足程ぐ
 大地十文まゝ破る六七尺づ

○更には尾の所の者
 横次 災火は是に 〇江尾府中の

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 川の如く流る 〇金吾日飯の所 依夜の中 山あらしき云

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出

〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出
 〇大井川八町 家河系町急流未破は流り吹出



江戸地震未代喇種

十和永七宮十一月四日卯時
 大地震諸島極方位を震
 而くそへド又以中七屋
 ぐづきいゝも所まとも括子
 のるはし町家極の瓦震
 落しり多多かみくを大坂
 とり建方ちがひの重瓦のみ
 ゆへともあはし地震へ大坂
 同和のりなるしみ日時刻
 地ん是又大坂日刻又
 芝の深もよりち極品川と
 ち坂河つとひとち大坂へ
 金銀ゆりありて大坂小坂
 とも括子の換りは日み日
 夜更の刻より出火あり

浅系橋若所まで丁目二丁目
 二丁目芝居のくべを川戸
 一丁中あませ小更及と焼
 ゆけ東へ大川橋をまより
 向島小橋村水戸極所一
 屋敷へ花火のく砂とば
 焼失日所町家か焼送
 九丁敷十丁げり街く
 宮の刻より火まづまる極に
 右か火中地ん共くづ
 ぐびくあるひゆへ大
 騷動混雜ありて極と
 何りまきりちまみり
 たくつる実流のくを
 後より記を

大地震末代嘯種

土が大地へん

くく炭焼と

以て吾後と

うと山中の

村く山崩て

や 壓へおま

ぬい代裂て

おお危人畜

たふ落入て死

失をるすその

数と知らん

○雲あ日の人

共く入流あ

吹雪し流ま屋

るる大川のど



諸國大津波來伐漸種

大關 小關 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭

攝津 豐山 尾宮 津島 津島 津島 津島 津島

羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽

駿州清見關 讚州小豆嶋 尾州佐屋 遠州濱松 駿州與津 執州桑名 三州菟川 紀州加田 抄州西宮 泉州塚

取頭 人話 世

駿州由井 泉州法野 三州三川 執州大湊 同古和 攝州尼崎 同傳法 同鳴尾 駿州岡部 執州川崎

次身 不同

御免

行 司

泉州岸留 執州若山

備後尾道

勸進元 差添人

志州鳥羽

土州寒浦

大關 小關 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭

遠州丹波 紀州田邊 紀州蒲原 紀州熊野 駿州津野 執州津野 執州高津 紀州高津 三州崎

羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽 羽

執州湯淺 執州六軒 同四日市 紀州新宮 尾州津嶋 遠州見附 讚州高松 三州池鯉 三州黑江 三州赤坂

取頭 人話 世

執州二江 抄州神戶 遠州白賀 武州神奈川 執州神社 攝州兵庫 同今津 同五百崎 同大石 武州品川 同川崎

地蔵をばさるるをばさる

阿のいんま陸腸のありありの中がけ愛の地蔵の
 陰んまア湯んまア阿例とみそむらうみらういん
 うくくらんようく男ドや又地蔵のわからおあげ
 らん女ドや阿人のぢらんが娘ごくたまらぬのう
 阿や娘のしゅうとがけりおくと音元をばして物
 とると押りつておがまふとつみてお片田舎ドや
 ころろく大勢どつてく展つてあてそくどく
 ぼんのやぐりささて又け妻とまあぬくし作賀
 かんあけさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 阿らんがけあいらんでも娘をさよと押りめく
 物のおつとくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
 ああさくさくさくさく地蔵ふ物くるあつ阿あつ
 なるんあつぬさくさくさくさくさくさくさくさく
 阿あつぐはさくさくおさんどがナア

大地震未代噺種

寛永七年 高永七郎年と
百四十八年丁未 月

冒大地人のそのを伝ふる

寺子屋の師匠山田源三郎と

二人は二港の分ふとる

一人は千りあり梅本屋と

片は片舟子未年り留る

早舟人の言ふは河川あり

師匠の術くははしきとゆり

しが熟くおひもてをいそ

ふい我は懐てをい來りその

親しい我は毒ねしめて扱ひ

ゆするらゆとゆぞ我ま入助

何面目もくくし身と合えん

とて虫虫後十文をに捨切て

自滅を遺棄士の流るる

後ぬ者をも

ろろろろり

○月大地人

串原表町の

風呂屋へ来

合せし者

二人一筋は湯へ入しう地ん

記をとも風呂の中を登り

知らばりし馬く烈しく

ありし人者よとと既ん

と千るあり風呂のこへお倒し

かじりかたを時をた途

方に流がけ風呂炭火を沸

せし火長く火燭り湯を沸て

沸より人いそくお果たり



住吉太神宮奇妙記

振興住吉郡住吉太神宮の奇蹟海上と有りぬみ
 津波ありと住吉なるありぬみ南赤永七甲寅
 十一月日み日大地震の後み日疾く起つて津上
 鳴動し津波あり大坂本津川と袖め堤尼々橋
 るど荒らりし住吉の原をつらこのうきひは
 津波の起る時あり
 ありし本社のいぶら
 地ひじしきききき
 剛けあふは深いへ打
 来る津波忽ち避く
 静くしなりと又を
 後ろの津波を避く
 居ると新津地あり
 るまが住吉見ゆし
 系物の人引く切らり



地震津波 屋敷を壊るる時

地震 舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

風呂をうらり 大地をうらり 大地をうらり

民布をうらり 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

流まの舟も 舟も壊れ 舟も壊れ

藍をうらり 大地をうらり 大地をうらり

焼接をうらり 舟も壊れ 舟も壊れ

地震をうらり 舟も壊れ 舟も壊れ

津波をうらり 舟も壊れ 舟も壊れ

板小をうらり 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

舟も壊れ 舟も壊れ 舟も壊れ

大地震も伏撃種

ぶみせうな

ぶみせうな

ぶみせうな

ざんりまふ舟う葉坤のみのつら

とゆふ舟うてそめうくとわけて

まびくさ大地震のうらうらうらに

まびくさ大地震のうらうらうらに

はのあうらに舟のうらうらうらに

二夜もあうらうらうらうらうらに

まびくさ大地震のうらうらうらに

まびくさ大地震のうらうらうらに

まびくさ大地震のうらうらうらに

地震乃げふ

さうゆらてものぐら大地層のさた大さきよ坂あを
まうらひやししく困つて事どや昔の王さぬを
木の丸と申すつり所ふんひりろをぬてゆかす
ろろまうてさあなあぐゆまは一首ごどつげ
何この物ゆ坂あゆのいなりとま瓜吹

さうまろとそんおりぬまつ
ゆかゆらととらうの天地物例どやとむら
ゆらととらととらととらととらととらととら
ゆらととらととらととらととらととらととら
ゆらととらととらととらととらととらととら
ゆらととらととらととらととらととらととら

さぬ人をまのふのうら
なうらととらととらととらととらととら
やもこがまゆ

人のおりまあなととら

大地震震来代副種

地震の種々を以て状

時々として法地震の種々を以て状
毫も激くする目を見たり物に

石まを返して煙を成す種々

種々を以て法地震の種々を以て状

種々の一おを押し出す種々

これら試みる種々

種々の一おを押し出す種々

種々の一おを押し出す種々

種々の一おを押し出す種々

種々の一おを押し出す種々

